

「ガイドブック発刊の相乗効果と事後の展開」

2022年（令和4年）2月16日（水） 神戸新聞記事の抜粋

2月9日に両丹日日新聞と神戸新聞からガイドブック発刊の取材を受けました。12日前後にはガイドブック全戸配付をおこないました。

9頁に記述ミスがありました。訂正シール入りの茶封筒を3月市広報に併せて全戸配付しますのでご協力ください。

【進呈とPR】「金浦の歩み・観光マップ・今昔かるた」で資料・情報提供や支援等お世話になった自治協・神戸大学大学院・埋文センター・郷土歴史家等に進呈しました。また、地域PRを意図して市長・農林振興課・山東支所・学校・観光関係・理髪店・写真店・カフェ・銀行やJAの支店等にはPRチラシとガイドブックの展示（陳列）をお願いしました。



金浦区自治会の文化的事業第4弾として製作されたガイドブック「夜久野高原88カ所石仏巡り」や地域の偉人の紹介など、魅力を幅広く知ってもらう構成。同自治会の福本辰志区長70は「文化遺産や自然など地域の魅力のPRになれば」と話している。同区自治会はこれまで「郷土誌『金浦の歩み』や『金浦・夜久野高原観光・散策マップ』、遊びながらまちの歴史を学べる『高原・金浦今昔かるた』を製作。今回のガイドブックは地域PRの第4弾となる。編集担当の波多野富則さん(71)によると、夜久野高原は火山「宝山」の噴火によってできたといわれる。江戸時代に旅人に茶を提供するために建てられた「茶堂（放光院）」を中心に、地域の交流が盛んになり発展してきたという。ガイドブックの名称は「茶堂を基点とした夜久野高原歴史・文化遺産巡りガイドブック」とした。石仏巡りのコースや、茶堂の歴史と境内に残る多くの地蔵、四季折々の自然など、地域の魅力を一冊に凝縮して掲載している。波多野さんは「朝来市と福知山市にまたがる夜久野は史跡がたくさん残る歴史の宝庫。使い続けてもらうため、地域活性化の糸口に」と話している。

【販売状況】現在50件程度の購入者があります。手渡しの他にはレターパックで郵送しています。さらに購入希望者が増えればなど期待しています。区民の皆さんには、知人や友人に勧めて戴くと有難いです。この度のガイドブックは特に「茶堂を基点」がキーワードです。茶堂（放光院）の護持奉祭でお世話になっている3ヶ寺（東源寺・国清寺・円明寺）には進呈させてもらい喜んで戴きました。

【茶堂の賑わい創出】ここ3～4年前から、春の大師祭の集客拡大や参道・石仏の補修・修理に努めてきました。昨秋の「88ヶ所石仏巡り」は成功事例と見る事が出来ます。今後一層の金浦区自治会、隣保単位の庵世話係、絆の会との連携、放光院護持会や管理人配置により持続可能な維持管理態勢が求められます。とりあえずは、令和4年度の護持会と役員を通じて茶堂付近の見所のPRに一役買ってもらう為にガイドブックの活用を考えています。護持会の発展と地域の活性化について意見、提言等お寄せ下さい。